

APE025-P03

会場:コンベンションホール

時間: 5月27日17:15-18:45

## 琵琶湖湖底堆積物中の生物源シリカ含有率から復元する古環境変動史

### Climate changes in Lake Biwa based on concentration profile of biogenic silica in bottom sediments

中西 俊貴<sup>1\*</sup>, 岩本 直哉<sup>2</sup>, 井内 美郎<sup>1</sup>

Toshiki Nakanishi<sup>1\*</sup>, Naoya Iwamoto<sup>2</sup>, Yoshio Inouchi<sup>1</sup>

<sup>1</sup>早稲田大学人間科学学術院, <sup>2</sup>栃木県立博物館学芸部自然課

<sup>1</sup>Faculty of Human Sciences, Waseda Univ., <sup>2</sup>Tochigi Prefectural Museum

近年、湖沼堆積物は、陸域の気候情報を時間連続的に保存している可能性が指摘されており、古環境を復元する手段の一つとして有力視されている。本研究対象の琵琶湖は約40万年間の堆積記録を有し、日本のほぼ中央に位置する優れた研究フィールドである。本研究では、琵琶湖の一次生産を担っている植物プランクトンのうち珪藻に着目し、吸光光度法(モリブデンイエロー法)を用いて湖底堆積物中の生物源シリカ含有率を算出した。生物源シリカ含有率と夏の平均気温との間には正の相関関係が確認されている。よって、今回の発表では古環境、特に気温の復元を目的とする。

キーワード:琵琶湖,堆積物,生物源シリカ,古環境

Keywords: Lake Biwa, sediment, biogenic silica, paleo environment